

連結決算説明 2018年12月期第2四半期累計



(株)クボタ 取締役専務執行役員 企画本部長
木村 茂

2018年8月8日 (水)



2018年12月期第1四半期より、従来の米国基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

また、前年同四半期及び前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに組み替えて比較分析を行っております。

2018年12月期第2四半期累計連結決算概要

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q累計	2017年12月期 2Q累計	増減		予想比増減 (2018年2月予想)	
			金額	%	金額	%
売上高	9,062	8,470	+ 592	+ 7.0	▲ 138	▲ 1.5
国内	2,865	2,763	+ 101	+ 3.7	+ 35	+ 1.2
海外	6,197	5,707	+ 490	+ 8.6	▲ 173	▲ 2.7
営業利益	11.2% 1,011	11.8% 1,002	+ 10	+ 1.0	▲ 79	▲ 7.2
税引前利益*	11.6% 1,052	12.8% 1,087	▲ 36	▲ 3.3	▲ 68	▲ 6.1
親会社の所有者に 帰属する 四半期利益	7.9% 719	8.4% 710	+ 9	+ 1.3	▲ 51	▲ 6.6

(億円)	2018年12月期 2Q末	2017年12月期末	増減	
			金額	%
資産合計	28,412	28,324	+ 89	+ 0.3
親会社の所有者に 帰属する持分	13,082	12,911	+ 171	+ 1.3

* IFRS第9号の適用により、2018年12月期以降は損益計算書に有価証券売却益が計上されません。なお、2017年12月期2Q累計には、有価証券売却益（+54億円）が計上されています。

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 3

- 税引前利益の減は、IFRS第9号の適用により当期から計上されなくなった有価証券売却益が前期は+54億円計上されていたことによる
- 予想との比較では
 - ✓ 売上の未達は中国での農機の低迷や米国での6月の卸売の遅れによる
 - ✓ 利益の未達は売上の未達や原材料価格の高騰などによる

事業セグメント別売上高

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q累計	2017年12月期 2Q累計	増減	
			金額	%
機械	7,510	6,977	+ 533	+ 7.6
国内	1,559	1,471	+ 88	+ 6.0
海外	5,951	5,507	+ 444	+ 8.1
水・環境	1,404	1,344	+ 60	+ 4.5
国内	1,159	1,145	+ 14	+ 1.2
海外	245	199	+ 46	+ 23.2
その他	148	149	▲ 1	▲ 0.5
国内	146	147	▲ 1	▲ 0.7
海外	2	2	+ 0	+ 12.5
売上高合計	9,062	8,470	+ 592	+ 7.0
国内売上高	2,865	2,763	+ 101	+ 3.7
海外売上高	6,197	5,707	+ 490	+ 8.6

為替の影響（+80億円）を除くと、機械海外は+7%の増。
海外売上全体は+7%の増

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 4

機械 +533億円（国内：+88 海外：+444）

- 国内** ・ 農機が増。高水準な建産機需要を背景に建機、エンジンも増
- 海外** ・ トラクタが主要地域の北米、欧州、タイで増
 - ・ 作業機は中国の農業機械補助金予算の発表遅れや米価低迷の影響により大幅減
 - ・ 建機は北米、欧州、中国などの各地域で好調に推移
 - ・ エンジンは北米と中国で大幅増



水・環境 +60億円（国内：+14 海外：+46）

- 国内** パイプはポンプや工事は増も、鉄管が減。環境は横ばい。社会インフラは素形材や土木工事用鋼管（杭）が増
- 海外** パイプは中東向けの鉄管やポンプが増。環境は浄化槽が増。社会インフラは横ばい

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 5

①機械国内

- ・ 農機は、シェアアップなどによりトラクタが増加し、+10億円（+2%）の増
- ・ 建機は、前期の需要が排ガス規制強化を控えた大型機にシフトしていた反動もあり、+15億円（+10%）の増
- ・ エンジンはOEM先の北米向け生産の拡大などにより、+20億円（+31%）の増
- ・ その他は+43億円（+6%）の増
 - ✓ その他には自販機事業からの撤退に伴う▲32億円の減を含む

②機械海外

- ・ 農機のうち、トラクタは+120億円（+6%）の増
 - ✓ 北米は小型機の需要拡大や、中型機の市場底打ちにより増
 - ✓ タイは米の価格上昇などにより増
 - ✓ 欧州は新製品の出荷進捗により増
- ・ 農機のうち、作業機は▲165億円（▲28%）の減
 - ✓ 主力の中国市場が大幅に縮小し、コンバイン、田植機ともに減
- ・ 建機は+225億円（+20%）の増
 - ✓ 北米は需要拡大とシェアアップによりミニバックホー、コンパクトトラックローダ、スキッドステアローダの主要3機種が揃って増加
 - ✓ 欧州も旺盛な住宅・工事需要を背景に増
 - ✓ 中国も工事量の増大により大幅増
- ・ エンジンも排ガス規制強化に伴う前倒し需要の発生などにより大幅増
- ・ 機械全体の地域別売上高は、中国での農機の減によりアジアが減少するも、北米・欧州・その他の各地域で増加

③水・環境

- ・ 国内は+14億円（+1%）の増
 - ✓ 主力の鉄管が減少するも、ポンプなどが増
 - ✓ 環境関連は微増
 - ✓ 素形材や土木工事用鋼管杭が増
- ・ 海外は+46億円（+23%）の増
 - ✓ 中東向けの鉄管が大幅増

営業利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q累計		2017年12月期 2Q累計		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	1,011	11.2	1,002	11.8	+ 10	+ 1.0

営業利益 (+10億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(112円→109円) ユーロ(122円→132円) 他	±0億円 +40億円 +20億円	+60億円
2.為替差損益			▲31億円
3.原材料	機械(買入部品・CD) 水・環境(鉄スクラップ 他)	▲40億円 ▲25億円	▲65億円
4.インセンティブ率変動	米国▲38億円 中国▲10億円 他		▲54億円
5.人件費増減	売上原価 販管費	▲6億円 ▲21億円	▲27億円
6.増販益			+180億円
7.その他			▲53億円

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 6

- 米ドルの為替は円高ではあるものの、本体からの輸出時点と海外での販売時点とのズレにより、減益要因とはならず
- 米国会計基準では営業外であった為替差損益が、IFRSの適用により営業利益に含まれる
- 原材料価格は、鋼材や鉄スクラップ、塩ビレジンなどの価格上昇による
- インセンティブ率変動は、北米では競合との熾烈な競争が続くなか金利水準の上昇が大きな減益要因となり、中国では販売強化のためのインセンティブが増加
- その他は主に販売経費や工場固定経費の増

事業セグメント別営業利益

For Earth, For Life
Kubota

■ 特殊要因を除いた営業利益

(億円)		2018年12月期2Q累計			2017年12月期2Q累計			実績 営業利益 増減 ①-④	修正後 営業利益 増減 ③-⑥
		実績 ①	特殊要因 ②	修正後 営業利益 ③=①-②	実績 ④	特殊要因 ⑤	修正後 営業利益 ⑥=④-⑤		
機械	売上高	7,510		7,510	6,977		6,977	+ 533	+ 533
	セグメント利益	1,087	-	1,087	1,018	-	1,018	+ 69	+ 69
	利益率	14.5%		14.5%	14.6%		14.6%	▲ 0.1P	▲ 0.1P
水・環境	売上高	1,404		1,404	1,344		1,344	+ 60	+ 60
	セグメント利益	91	-	91	118	-	118	▲ 27	▲ 27
	利益率	6.5%		6.5%	8.8%		8.8%	▲ 2.3P	▲ 2.3P
その他	売上高	148		148	149		149	▲ 1	▲ 1
	セグメント利益	11	-	11	15	-	15	▲ 4	▲ 4
	利益率	7.5%		7.5%	10.1%		10.1%	▲ 2.5P	▲ 2.5P
全社/消去	セグメント利益	▲ 178	-	▲ 178	▲ 150	-	▲ 150	▲ 28	▲ 28
計	売上高	9,062		9,062	8,470		8,470	+ 592	+ 592
	営業利益	1,011	-	1,011	1,002	-	1,002	+ 10	+ 10
	利益率	11.2%		11.2%	11.8%		11.8%	▲ 0.7P	▲ 0.7P

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 7

- 機械は、インセンティブ率の悪化や原材料価格の高騰などの減益要因を、国内外での増収や、対ユーロを中心とする円安効果などで補い増益
 - ✓ 事業別ではトラクタ、建機が増益となり、作業機、エンジンが減益
 - ✓ エンジンは前倒し需要の急増により売上高は増加するも、納期対応のための航空機輸送に伴う運送費の増（約▲40億円）により減益
- 水・環境は、主力である国内向け鉄管の減や、原材料価格の高騰などにより減益
- 全社/消去の減益は主に為替差損益の悪化による

金融収益・金融費用（ネット）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期 2Q累計	2017年12月期 2Q累計	増減
			金額
金融収益・費用（▲）	40	86	▲ 45
金融収支	36	34	+ 2
有価証券売却益 *	-	54	▲ 54
その他	4	▲ 2	+ 6

* IFRS第9号の適用により、2018年12月期以降は損益計算書に有価証券売却益が計上されません。

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 8

- 金融収益・費用（ネット）の悪化は、IFRS第9号の適用により当期より金融収益に有価証券売却益が計上されなくなったことが主要因
 - ✓ 保有株式の売却は当期も実施

税引前利益・四半期利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q累計		2017年12月期 2Q累計		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
税引前利益	1,052	11.6	1,087	12.8	▲ 36	▲ 3.3
法人所得税 (実効税率)	▲ 280 (26.6%)		▲ 339 (31.2%)		+ 59	
持分法による投資損益	9		9		▲ 0	
四半期利益	781	8.6	757	8.9	+ 23	+ 3.1

四半期利益の帰属

親会社の所有者	719	7.9	710	8.4	+ 9	+ 1.3
非支配持分	61	0.7	47	0.5	+ 14	+ 29.5

(円)		2018年12月期	2017年12月期	増減
1株当たり配当	(中間)	16 円	15 円	+ 1 円
	(期末)	(未定)	17 円	-
	(通期)	(未定)	32 円	-

配当性向：目標30%・総還元性向：30%超

上限100億円(取得期間：2018年4月27日～12月19日)の自己株式取得枠を設定

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 9

- 税引前利益は前年の株式売却益を除けば実質+18億円の増
- 法人所得税は米国の連邦法人税率の引き下げによる実効税率の大幅低下により+59億円の負担減
- 中間配当は1円増配の16円。 予想している利益が達成できるようであれば、期末も増配できる可能性がある
- 自己株式については、4月に100億円の取得枠を設定し、6月末までに30億円を取得。 下期も取得を継続

財政状態計算書（資産）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期 2Q末	2017年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動資産	16,267	16,084	+ 183	
現金及び現金同等物	2,518	2,307	+ 211	
営業債権	6,277	6,391	▲ 113	+ 40
金融債権	2,570	2,507	+ 63	
棚卸資産	3,829	3,589	+ 241	+ 360
その他	1,073	1,291	▲ 218	
非流動資産	12,145	12,239	▲ 94	
金融債権	5,762	5,595	+ 167	
その他	6,383	6,645	▲ 261	
資産合計	28,412	28,324	+ 89	
金融債権 計	8,331	8,102	+ 230	+ 480
<ご参考> 海外子会社期末日レート (円)				
米ドル	111	113	▲ 2	
ユーロ	128	135	▲ 7	

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 10

- 資産合計は前期末比+89億円（+0.3%）増で大きな変動はなし
- 棚卸資産は、農機市場が大幅に悪化した中国や、6月の卸売が遅れた米国で増加
 - ✓ 7月の米国の卸売は+78%増となり、6月の遅れはほぼ取り戻している
- 金融債権（流動・非流動合計）の増は、主に北米の小売好調による
 - ✓ 金融債権の回収は良好な状態を維持

財政状態計算書（負債）

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q末	2017年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動負債	8,954	9,175	▲ 220	
社債及び借入金	3,285	3,635	▲ 350	
営業債務	2,994	2,861	+ 132	
その他	2,676	2,678	▲ 3	
非流動負債	5,561	5,393	+ 168	
社債及び借入金	4,995	4,706	+ 289	
退職給付に係る負債	125	129	▲ 4	
その他	440	558	▲ 118	
負債合計	14,516	14,568	▲ 52	
有利子負債	8,281	8,341	▲ 60	+ 150
DEレシオ（ネット）	0.44	0.47	▲ 0.03	
金融を除くDEレシオ（ネット）	▲ 0.18	▲ 0.14	▲ 0.04	

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 11

- 有利子負債（流動・非流動合計）は、金融債権の増により北米で増加したものの、社債の償還により親会社で減少
- 今後も現金及び現金同等物の充当などにより有利子負債の抑制を進める

財政状態計算書（資本）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2018年12月期 2Q末	2017年12月期末	増減
親会社の所有者に帰属する持分	13,082	12,911	+ 171
資本金	841	841	+ 0
資本剰余金	862	850	+ 11
利益剰余金	10,942	10,402	+ 540
その他の資本の構成要素	469	819	▲ 351
在外営業活動体の為替換算差額	▲ 165	57	▲ 222
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	634	763	▲ 129
自己株式	▲ 32	▲ 2	▲ 30
非支配持分	815	845	▲ 30
資本合計	13,897	13,756	+ 141
親会社所有者帰属持分比率	46.0%	45.6%	+ 0.4P

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社 Kubota 12

キャッシュ・フロー計算書

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 2Q累計	2017年12月期 2Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	584	641	▲ 57
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 164	▲ 89	▲ 75
有形固定資産及び無形資産の取得	▲ 238	▲ 315	+ 78
その他	73	226	▲ 153
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 171	▲ 339	+ 168
為替レート変動の現金及び現金同等物に対する影響	▲ 38	0	▲ 38
現金及び現金同等物の純増	211	213	▲ 3
フリーキャッシュ・フロー	346	326	+ 21

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 13

- 営業活動によるキャッシュ・フローの内訳は、利益と減価償却費で+1,023億円の収入、金融債権の増で▲429億円の支出、その他▲10億円の支出
- 米国基準では投資活動によるキャッシュ・フローに含まれていた「金融債権の増減」がIFRSでは営業活動によるキャッシュ・フローに含まれる
- 営業活動によるキャッシュ・フローは棚卸資産の増加幅拡大などにより前年比▲57億円の収入減
- フリーキャッシュ・フローにも「金融債権の増減」の取り扱い変更が影響

金融事業の状況 <ご参考（非監査／IFRSベース）>

For Earth, For Life
Kubota

財政状態計算書

(億円)	2018年12月期2Q末		2017年12月期末	
	金融事業	金融事業を除く ベース	金融事業	金融事業を除く ベース
資産合計	10,282	18,987	9,967	19,201
現金及び現金同等物	139	2,379	126	2,181
営業債権	324	5,972	291	6,108
金融債権	8,331	-	8,102	-
棚卸資産	-	3,829	-	3,589
有形固定資産	4	3,148	5	3,213
その他	1,484	3,658	1,443	4,111
負債合計	8,735	6,483	8,515	6,744
有利子負債	8,247	299	8,071	514
その他	487	6,184	443	6,229
資本合計	1,548	12,503	1,453	12,457

損益計算書（金融事業）

(億円)	2018年12月期 2Q累計	2017年12月期 2Q累計	増減	
	金額	金額	金額	%
売上高	315	283	+ 32	+ 11.3
営業利益	45.2% 142	42.3% 120	+ 22	+ 18.7
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	29.0% 91	25.4% 72	+ 20	+ 27.1

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 14

- 非金融事業での有利子負債は299億円、現預金2,379億円を差し引いたネットではマイナス2,080億円となり、無借金状態を維持
- 金融事業はタイでの販売費及び一般管理費の削減や米国での実効税率の低下などにより、収益性はさらに改善

機械事業の動向

機械事業の動向（北米）

For Earth, For Life
Kubota

米国

良好な景気の恩恵を受けて小型トラクタや建機、エンジンの需要は堅調に推移。農業市場も回復の兆し

トラクタ小売

小型は良好な景気や底堅い住宅市場を背景とした市場拡大により増。中型は市場が底打ちの傾向を見せるなか、シェアも向上し増

建機/小売

堅調な住宅、建設市場を背景にMBとCTLが大幅増。SSLも増。3機種ともにシェアも向上

エンジン/卸売

減税政策や堅調な景気を背景とした良好な建産機需要を受けて増

■トラクタ市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2017年	0-40馬力	+13.7%	+11.2%	▲1.7%	+8.9%	+12.0%	+7.8%
	40-120馬力	▲4.0%	▲1.4%	▲4.0%	+2.4%	▲2.5%	▲1.6%
	0-120馬力	+7.3%	+7.7%	▲2.4%	+6.5%	+7.5%	+4.7%
2018年	0-40馬力	+1.6%	+11.6%	-	-	+8.3%	-
	40-120馬力	▲2.1%	+6.5%	-	-	+3.0%	-
	0-120馬力	+0.4%	+10.3%	-	-	+6.8%	-

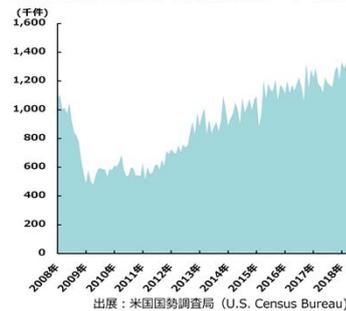
出展：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

■0-8tバックホー市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-12月
2017年		+12.2%	+12.4%	+12.0%	+19.4%	+12.3%	+14.0%
2018年		+5.9%	+15.3%	-	-	+11.6%	-

出展：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

■米国住宅着工件数（季節調整済・年率換算）



出展：米国国勢調査局（U.S. Census Bureau）

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 16

<上期実績>

- 主力の米国では減税効果などもあり、好景気が継続
- 住宅着工は130万軒前後の高水準で推移し、住宅価格や株式市場も堅調

①トラクタ

- 市場環境
 - ✓ 個人向けの小型（40馬力以下）市場は、前年比+8%拡大
 - ✓ 中型（40馬力～120馬力）市場は、前年まで低迷していた70馬力以上も含めて改善し、前年比+3%の拡大
 - ✓ 大型トラクタ（M7）が属する120～160馬力の市場は縮小が継続
- 小売は全体（トラクタ、芝刈機、ユーティリティ・ピークル）で+5%増
 - ✓ 小型トラクタは気温上昇に伴う芝刈需要の本格化を受けて5月以降大幅増
 - ✓ 中型トラクタも市場の回復やシェアの拡大により増
 - ✓ 芝刈機も気温の上昇を受けてプロシューマー向け新製品やプロ向けモデルチェンジ機が好調
 - ✓ ユーティリティ・ピークルだけが新製品の高速ガソリンモデルの出荷が下期にずれ込んだ影響で減
- 卸売は、小型トラクタが急激な小売の増加に供給が追いつかず前年を下回るも、それ以外の機種が伸長し、全体で+5%増
 - ✓ グレート・プレーンズ社のインブルメントは中小型向け、大型向けともに大幅増

②建機

- 市場環境
 - ✓ 建設需要の拡大によりミニバックホー、コンパクトトラックローダがともに2桁の増
 - ✓ 農業市場悪化の影響を受けるスキッドステアローダも前年並みを維持
- 小売は、得意とする一般小売向け、販売強化に努める独立レンタル向けともに増加し、3機種合計で+25%の大幅増。シェアも上昇
- 卸売も3機種ともに増加。特にディーラー在庫適正化のために前年卸売を抑制していたスキッドステアローダが大幅増

③エンジン

- エンジンは、オイル・ガス市場の回復もあって建産機向けが大幅増

<下期見通し>

- 小型トラクタなどの個人向け、建機・エンジンなどの建設関連ともに堅調を維持する見込み
- 農用トラクタについては、米中貿易摩擦の農家への影響が不透明なため楽観はできないものの、100馬力以下の中型トラクタは回復が継続し、100馬力以上の大型トラクタも底打ちを見込む
- 米国の金利水準は昨年未以降上昇を続けており、7月以降もさらなる上昇が見込まれる中で、各社が提供する長期0%ファイナンスに見直しの動きが出てくる可能性がある。さらに、鋼材価格等の高騰を受けた製品値上げも想定される
- 他社動向や市場状況を見極めつつ、柔軟かつ迅速に対応していく

欧州

**建産機市場の活況は継続し、建機やエンジンの需要は堅調。
低温による春需要の遅れなどによりトラクタの需要は低迷**

トラクタ/小売

小型は低温による春需要の遅れなどにより低調。
中型は、昨年市場投入した機種を中心に販売が拡大

インプルメント/卸売

天候不順の影響はあるものの、耕耘関連は昨年からの市場回復が継続。牧草関連は昨年の生乳価格回復を背景に増

建機/小売

良好な景況感や都市部を中心とした旺盛な工事需要を受けた南欧、東欧、ベネルクスなどの需要増や、フランス、ドイツ、英国など主要市場でのシェア拡大により増

エンジン/卸売

建産機市場の活況や新排ガス規制（Stage V）を控えた需要拡大により増

<上期実績>

- トラクタ市場は、天候不順などにより小型を中心に低迷
- 建機市場は、旺盛な工事需要が続くなか、既に高水準に達しているフランス、ドイツ、英国などでは横ばいとなるも、南欧、東欧、ベネルクスなどが大幅に拡大し、欧州全体では増
- エンジンは、当初の想定を上回る需要拡大が継続
- トラクタの小売は、中型が昨年投入した機種を中心に増加したものの、小型が春シーズンの遅れや欧州新規制の認証取得遅れなどにより減
 - ✓ 大型トラクタについても、M7の改良モデルやスペシャル機の認証取得遅れにより減
- 建機の小売は、市場拡大とシェアアップにより大幅増
- 卸売については、建機・エンジンが増加したほか、トラクタも第2四半期に入って遅れていた新製品の卸売が進捗したことにより増
- クバンランド社の農業用インプルメントは、需要回復を受けて引き続き伸長

<下期見通し>

- トラクタ市場は天候不順の影響が和らぐため、緩やかな回復を見込む
 - ✓ 認証取得が遅れていた新製品の投入により、小売の回復を図る
- 建機市場は拡大基調は維持するものの、緩やかな成長に移行
- エンジンは強い需要が続く
 - ✓ 特に前倒し需要に対する供給面での対応強化を中心に収益の確保に努める

機械事業の動向（アジア）

For Earth, For Life
Kubota

タイ

コメやキャッサバの価格上昇を受けてトラクタ需要は回復。
周辺国のミャンマーでは、人手不足や米価回復を背景に賃刈・賃耕
が増加し、トラクタ、コンバイン需要が拡大

トラクタ小売

稲作向けは、ジャスミン米の価格上昇等を背景に増。畑作向けは、
シュガーケーン向けが低迷するも、キャッサバ向けの回復により増

コンバイン小売

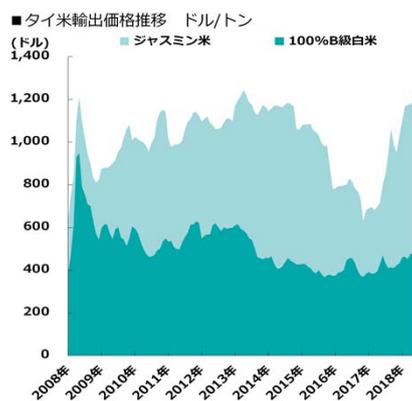
東北部で前年の洪水の影響が
解消されておらず減

建機小売

都市部での労働力不足を背景
とした需要拡大により増

周辺国/卸売

カンボジアは、機械化ニーズ
は底堅いものの、パーツ高に
よるディーラーの採算悪化に
より減。
ミャンマーは、人手不足や米
価の回復を背景に大幅増



【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 18

<上期実績>

- ジャスミン米を中心とした米価の上昇により稲作向けの需要が回復
- 畑作向けは、シュガーケーン向けが低迷したものの、キャッサバ向けが回復
- タイ国内のトラクタの小売は、稲作向け、畑作向けともに伸長し、全体で+6%増
- コンバインの小売は、主力市場である東北部で前年の洪水の影響が残り、減少
- 建機の小売は、都市部での労働力不足の進行に伴い、順調に拡大
- カンボジア、ラオス、ミャンマーの周辺3カ国向けは、米ドルに対するパーツ高の影響でディーラーの採算が悪化したカンボジアが低迷するも、米価上昇や機械化ニーズの高まりによりミャンマーが大幅増
- タイ（周辺3カ国を含む）の売上は、タイ国内、周辺3カ国向けともに増加

<下期見通し>

- ジャスミン米の価格が依然高水準にあることや、雨季の天候が順調なことからトラクタ市場は良好に推移する見込み
 - ✓ 集中豪雨や洪水で苦戦した昨年対比で増収を見込む

機械事業の動向（アジア）

For Earth, For Life
Kubota

中国 中央政府農機購入補助金は前年同額。補助金の開示遅れや米価低迷などにより農機需要は大幅に悪化。高処理量機への需要移行は継続。建機やエンジンは、高水準な工事需要を背景に引き続き堅調

- トラクタ/小売** 高馬力帯への需要の移行により、参入馬力帯の市場規模が縮小し減
- コンバイン/小売** 補助金政策開示の遅れに加え、請負業者間の競争激化、高処理量機への需要移行により減。一方で、ホイールコンバインは着実に伸長
- 田植機/小売** 高水準だった前年の反動や米価の下落、中古機価格の下落により減
- 建機/小売** 一帯一路政策や活況な都市インフラ工事、労働力不足を背景に拡大。一方で、他社の市場参入により競争は激化
- エンジン/卸売** 建産機向けを中心に引き続き好調に推移

■ 中国 中央政府農機購入補助金推移

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
補助金(億円)	第1次	-	-	-	-	110	130	200	170	210	228	186	186
	年間計	20	40	130	155	175	215	218	238	238	237	186	186

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 19

<上期実績>

- 中央政府の農機購入補助金予算は、前年と同じ186億円を維持するも、発表時期が大幅に遅れた結果、各省の補助金の公示も4月末以降にずれ込む
- 米価や中古機価格の下落、賃料業者間の競争激化などもあって市場は急速に縮小
- 建機やエンジンの市場は、工事量の増加を受けて拡大が継続
- 農機の小売は、コンバイン、田植機、トラクタともに大幅に減少
- 昨年から本格販売を開始したホイールコンバインだけが増加
- 建機は昨年に引き続き伸長
- エンジンは建産機向けを中心に大幅増

<下期見通し>

- 農機は厳しい市場環境が続くものの、需要期を迎える汎用コンバインを中心に前年下期並みの売上をめざす
- 建機、エンジンは引き続き好調を維持する見込み

日本 農機は大型化の進展により金額ベースでの需要は横ばい。
建機はレンタル会社の投資意欲も旺盛で底堅く推移。
エンジンは国内外の旺盛な建産機需要を受けて堅調に推移

農機/小売

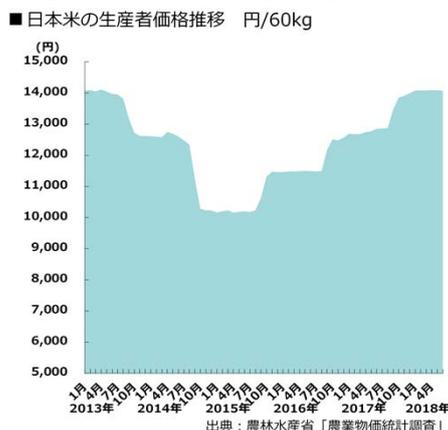
担い手向けの新製品投入や、排ガス規制強化前の作りだめ機の好調によりトラクタ、コンバインが増。田植機は直進キープ機能付き製品の拡販により増。
3機種ともにシェアも拡大

建機/小売

75馬力以上のエンジン排ガス規制強化を受けた昨年の大型機シフトからの反動と高水準な建設需要を背景に増

エンジン/卸売

堅調な国内建産機市場を背景に増。北米市場の活況を受けてOEM先の海外向け案件も堅調



【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 20

<上期実績>

- 農機の需要は大型化の進展により金額ベースで横ばい程度
- トラクタは担い手向けの新製品投入などにより増加
- コンバインは排ガス規制強化前の作りだめ機の好調、田植機は直進キープ機能付き製品の拡販により、合計で前年並みの売上を維持
- トラクタ、コンバイン、田植機ともにシェアが拡大
- 建機はレンタル会社の購入意欲の高まりと、昨年の大型機シフトからの反動により拡大
- エンジンは建産機市場の回復やOEM供給先の生産拡大などにより好調

<下期見通し>

- コンバインを中心に昨年の排ガス規制強化に伴う仮需の反動が想定されるも、トラクタの拡販とシェアの一層の引き上げにより、前年下期並みの売上をめざす
- 建機は今後も堅調なレンタル需要を見込む
- エンジンは今後も順調に推移する見込み

業績予想

2018年12月期業績予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 (予想)	2017年12月期 (実績)	増減		2018年12月期 (期初予想-2月)
			金額	%	
売上高	18,200	17,510	+ 690	+ 3.9	18,200
国内	5,860	5,638	+ 222	+ 3.9	5,750
海外	12,340	11,872	+ 468	+ 3.9	12,450
営業利益	11.2% 2,040	11.4% 2,000	+ 40	+ 2.0	11.7% 2,130
税引前利益*	11.5% 2,100	12.2% 2,140	▲ 40	▲ 1.9	12.0% 2,190
親会社の所有者に帰属する 当期利益	8.0% 1,450	7.7% 1,342	+ 108	+ 8.1	8.3% 1,510

* IFRS第9号の適用により、2018年12月期以降は損益計算書に有価証券売却益が計上されません。なお、2017年12月期（実績）には、有価証券売却益（+84億円）が計上されています。

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 22

- 売上高の合計は従来予想のままではあるものの、国内が+110億円増、海外が▲110億円減
- 税引前利益が前年比▲40億円減となるのは前年の株式売却益の影響による
 - ✓ この影響を除くと+44億円の増益
- 従来予想との比較では営業利益▲90億円減、親会社の所有者に帰属する当期利益▲60億円減
 - ✓ 原材料価格の高騰が当初想定を大幅に上回ることなどによる

事業セグメント別売上高予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 (予想)	2017年12月期 (実績)	増減		2018年12月期 (期初予想-2月)	増減	
			金額	%		金額	%
機械	14,880	14,365	+ 515	+ 3.6	14,970	▲ 90	▲ 0.6
国内	3,080	2,945	+ 135	+ 4.6	2,970	+ 110	+ 3.7
海外	11,800	11,420	+ 380	+ 3.3	12,000	▲ 200	▲ 1.7
水・環境	3,040	2,856	+ 184	+ 6.4	2,950	+ 90	+ 3.1
国内	2,505	2,407	+ 98	+ 4.1	2,500	+ 5	+ 0.2
海外	535	449	+ 86	+ 19.2	450	+ 85	+ 18.9
その他	280	289	▲ 9	▲ 3.1	280	-	-
国内	275	286	▲ 11	▲ 3.8	280	▲ 5	▲ 1.8
海外	5	3	+ 2	+ 66.7	-	+ 5	-
売上高合計	18,200	17,510	+ 690	+ 3.9	18,200	-	-
国内売上高	5,860	5,638	+ 222	+ 3.9	5,750	+ 110	+ 1.9
海外売上高	12,340	11,872	+ 468	+ 3.9	12,450	▲ 110	▲ 0.9

為替の影響（▲20億円）を除くと、機械海外は+4%の増。海外売上全体は+4%の増

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 23

- 機械国内は建機、部品、その他の好調を反映して前回予想比+110億円増
- 機械海外は中国の農機市場の大幅悪化などを反映して前回予想比▲200億円減

営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2018年12月期 (予想)		2017年12月期 (実績)		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	2,040	11.2	2,000	11.4	+ 40	+ 2.0

営業利益 (+40億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(112円→110円) ユーロ(127円→130円) 他	▲30億円 +60億円 +20億円	} +50億円
2.為替差損益		▲25億円	
3.原材料	機械(買入部品・CD/CU) 水・環境(鉄スクラップ 他)	▲80億円 ▲50億円	} ▲130億円
4.インセンティブ率変動	米国▲65億円 中国▲20億円 他		
5.人件費増減	売上原価 販管費	±0億円 ▲40億円	} ▲40億円
6.特殊要因	米国ハリケーンに関連する支払保険金(前期)	+7億円	
7.増販益			+250億円
8.その他			▲2億円

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 24

事業セグメント別営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

■ 特殊要因を除いた営業利益

(億円)		2018年12月期(予想)			2017年12月期(実績)			予想 営業利益 増減 ①-④	修正後 営業利益 増減 ③-⑥
		予想 ①	特殊要因 ②	修正後 営業利益 ③=①-②	実績 ④	特殊要因 ⑤	修正後 営業利益 ⑥=④-⑤		
機械	売上高	14,880		14,880	14,365		14,365	+ 515	+ 515
	セグメント利益	2,090	-	2,090	2,007	▲ 7	2,014	+ 83	+ 76
	利益率	14.0%		14.0%	14.0%		14.0%	+0.1P	+0.0P
水・環境	売上高	3,040		3,040	2,856		2,856	+ 184	+ 184
	セグメント利益	250	-	250	244	-	244	+ 6	+ 6
	利益率	8.2%		8.2%	8.5%		8.5%	▲0.3P	▲0.3P
その他	売上高	280		280	289		289	▲ 9	▲ 9
	セグメント利益	20	-	20	30	-	30	▲ 10	▲ 10
	利益率	7.1%		7.1%	10.4%		10.4%	▲3.3P	▲3.3P
全社/消去	セグメント利益	▲ 320	-	▲ 320	▲ 282	-	▲ 282	▲ 38	▲ 38
計	売上高	18,200		18,200	17,510		17,510	+ 690	+ 690
	営業利益	2,040	-	2,040	2,000	▲ 7	2,007	+ 40	+ 33
	利益率	11.2%		11.2%	11.4%		11.5%	▲0.2P	▲0.3P

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 25

- 下期の機械はエンジンの航空機輸送が一段落するものの、トラクタや建機は原材料価格やインセンティブが大きな負担となる
- 水・環境は増収効果や製品値上げなどによる増益をめざす

想定為替レート及び設備投資等

For Earth, For Life
Kubota

■ 為替レート

		2018年12月期			2017年12月期
		(今回見直し)	(期初予想)	(実績)	(実績)
円/米ドル	上期(1~6月)	-	110	109	112
	下期(7~12月)	111	110	-	112
	年間(1~12月)	110	110	-	112
円/ユーロ	上期(1~6月)	-	130	132	122
	下期(7~12月)	128	130	-	132
	年間(1~12月)	130	130	-	127

■ 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)	2018年12月期		2017年12月期
	(今回見直し)	(期初予想)	(実績)
設備投資	700	700	522
減価償却費	530	530	451
研究開発費	500	480	434

【2018年12月期第2四半期決算説明会資料】 株式会社クボタ 26

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



ご清聴ありがとうございました。